

復活節
教説

鶏の鳴き声が聞こえたら

<マタイによる福音書27:3-5>

金根湜 牧師（ハンサラン教会）



一つの出来事に対し、それを眺める人々の解釈の仕方は様々です。今日の本文27章3節はイスカリオテのユダが自分の行動に対して後悔している場面で、韓国語聖書の同じ箇所では「悔いる・反省する」という意味の動詞が使われています。これを読み違えて「悔い改め」として解釈する場合もあるようですが、ここでは「悔い改め」ではなく「後悔した」との理解の方が正しいです。

ところで、ユダはどうして後悔をしたのでしょうか。人は自分の行動や選択が間違えたと感じれば後悔をします。イエス様を売り渡したとき、ユダはイエス様を追い詰めれば物事が自分の思い描くように運ばれると思っていたようです。彼は、イエス様を通じてイスラエルが当時腐敗していた宗教指導者たちとローマの支配から解放され、独立するとの展開を期待していた訳です。ところが、イエス様がただ打たれ虐げられ、あらゆる侮辱を進んで受けられ、何の抵抗もなさらないのを見て、彼は後悔しました。そこでユダは自らの命を絶ち、自分の選択に対する結論を出しました。

人が自分の過ちを認めた後にどのような選択に出るか、それによって後半の人生は決まるものです。結局ユダは命を絶ちましたが、鶏の鳴き声に涙を流したペトロは、後に初代教会の指導者として働くことになります。これこそが悔い改めと後悔の違いです。後悔は自分一人だけでけりをつけ、人生に何の変化も起こしません。一方、悔い改めは御前に立って生き方を改めていくことです。ユダとペトロ、二人とも同じく自分の行動を振り返り後悔をしたのですが、その後彼らが向かった先は全く異なりました。悔い改めは回復につながり、後悔はさらなる挫折に続くのです。

それで全人格的な悔い改めに関しては、知・情・意の全てにおいて考えなければなりません。全人格的な悔い改めについて説明いたしますと、まず認めること（知）が必要です。詩編32：5では「わたしは罪をあなたに示し／咎を隠しませんでした。わたしは言いました／主にわたしの背きを告白しよう。そのとき、あなたはわたしの罪と過ちを／赦してくださいました。」とあります。「告白」とは罪を認めることであり、「隠さない」とは弁明をしたり正当化しようとしなないことを指します。

次に、心的（情）な悔い改めがあります。罪を認めた上で、そういう自分の姿を残念がり、悲しまなければなりません。御前に立つ心の貧しい者として、自分の罪をことごとく挙げ、悲しみ悔いるべきなのです。

最後に自分の悔い改めに肝心な意志が伴われているか（意）を確かめるべきです。そうです、悔い改めには意志が必要です。具体的な中身をもつ決意、そしてそれに見合うよう行動を改めなければなりません。即ち、悔い改めに相応する実を結ばなければならないのです。それによって悔い改めは何らかの変化をもたらしますが、後悔にはそのような変化はありません。悔い改めは罪の道から引き返すことですが、後悔は過去を残念がるばかりの行為です。悔い改めは決断につながりますが、後悔は嘆くに止まります。

神様はどんな罪人も受け入れて下さいます。それなのに自分の罪は自分で何とかできると、意地を張る人がいます。責任感のある行動に見えるかも知れません。しかし主の御目には人間の傲慢さに過ぎません。罪とは人に解決できるものではありません。イエス様の血潮によってしか解決できないものなのです。御前で悔い改め、主のもとに帰る人だけが癒され回復の御恵みにあやかることができます。私たちがいまだに罪を絶つことができず、悔い改めずにいるならば、どうか血潮によって洗われ、清められますように。

ユダは自ら命を絶ちました。彼は、悔い改めることで赦されたペトロとは違う行動に出ました。これが後悔に止まる人の姿です。悔いに挫折し、ついには滅びる方を選んだユダの一生はそう終わりました。そこに神様の介入の余地はありませんでした。クリスチャンは自力で生きるのではなく、キリストのなかで生かされる存在なのです。ペトロも主を否定したのですが、彼は鶏の鳴き声が聞こえた時、イエス様の言葉を思い出し号泣しました。私達も彼と同じく何かのため、たとえばお金のために良心を捨て、御言葉を捨てることがあります。イエス様さえ捨てられるかも知れません。いや、お金ばかりか死を前にしても同じく行動し得る者たちです。誰にもその可能性はあります。ところが、どうかペトロが泣いたことを忘れないでください。彼はイエス様の御言葉を思い出しました。涙は悔い改めを意味します。罪から立ち返り、二度と主を否定することはするまいとの決断がそこにはありました。

本日、復活節の朝を迎えます。どうか私達誰もが、鶏の鳴き声が聞こえたら、イエス様の御言葉を思い出し、主の御もとに帰ることができますようにとお祈り致します。

ルツ結婚相談所

在日韓国人・帰化人、結婚・再婚を望んでいる人へ
年齢 23 歳～70 歳まで、北海道から九州まで

親身になってご成婚までねばり強くお世話を
させていただきます。お気軽にお電話ください。

090-3429-9707 代表 崔貞淑

韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格：2,500円（消費税・送料込み）

※お求めは総会事務所へ

特集

元老牧師との対談

＜楊炯春牧師の90年の人生＞

進行担当：鄭然元牧師 <2021年 3月13日/土>



若かり頃の楊炯春牧師

○鄭牧師：福音新聞特集の元老牧師との対談企画により、楊炯春牧師任が対談に応じて頂き、感謝致します。まず、90歳をお迎えになられ、お祝い申し上げます。90年の生き様を振り返られ、どのような考えをお持ちでしょうか？ まずは、お誕生と幼少期の頃の事を紹介してください。

●楊牧師：私は、1931年4月6日現在の咸鏡北道の咸興にて生まれ、祖父母と両親、妹3人の家族の中で育ち、公務員の父と一緒に朝鮮半島の一番北東に位置する阿吾地/アオジで幼少期時代を過ごしました。日帝統治下であった1930年代では、炭鉱をはじめとする鉱工業開発が進められ、日本の窒素肥料の工場、人造石油の製造をしていたため、技術者とその家族の日本人居留者も多く、北朝鮮の統治下後でも鉱業や化学工業の拠点となる地域での生活をした事を覚えています。

○鄭牧師：信仰生活について、お話しください。

●楊牧師：私は、北朝鮮の咸興中央教会に出席していました。咸興は、アメリカ北長老教が伝道を開始した地域で、カナダ宣教部が1898年度から宣教活動を熱心にしており、多くの教会やキリスト教の学校がありました。日帝から解放された1945年8月15日（水）を迎えながらも、主日礼拝を捧げる事ができない事件が起き、その責任を感じた李グォンチャン牧師は、自分の不覚に起因するものだからと教会を辞任する意思を表示されましたが、教会はこれをさし戻した記憶があります。彼は、本当の牧師であったという思いをした記憶があります。

○鄭牧師：北朝鮮の咸興から韓国に来られた事についてお話しください。

●楊牧師：6・25動乱が起り、中共軍（中国軍）の参戦によって戦場が悪化し、1950年12月15日から25日のクリスマス期間に北朝鮮の住民は、米軍1海兵師団と避難民10万人近い人々を救出する出来事が動乱での最も重大な事件でした。当時、アメリカ第10軍団長エドワード・メラリ・アーモンド将軍を説得した玄鳳學顧問官は、私が通っていた咸興高校出身であり、咸興永生学校チャプレンであった玄垣国牧師の息子でした。彼は、セブランス医大を卒業し、医者として働いている途中に戦争が起り、顧問官として任務に着いていましたが、中共軍が攻めて来るや撤収する過程で、避難民を助け出す事を主張し、何隻かの軍艦と民間艦を動員させ興南埠頭から出発した避難船に乗り南の韓国にたどり着きました。私の両親の、息子は一人でも生き残るべきだとの考えから、私だけが船に乗る羽目になりました。乗っている途中に大きな嵐に見舞われ、沈没の危機もありましたが、讚美しながら韓国の巨済島に無事に到着し、避難民としての生活が始まりました。

○鄭牧師：避難民の生活の中で、神学をするようになった動機についてお話しください。

●楊牧師：巨済島には、北朝鮮軍の捕虜収容所と避難民の集団村が形成されており、そこに新生宿というキリスト教施設が作られ、聖書と信者の生活を指導していました。そのような生活をしていた時に、姜元龍牧師を講師に招いた集会が開かれました。その時に、大きな恵みを受けて神学を学ぶことを決意し、当時、釜山に避難していた「朝鮮神学校（現、韓国神學大学校）」に入学をして勉強しました。私が、影響を受けた方には、金在俊、金正俊、徐南同牧師がおられます。金正俊牧師の逸話の一つとして、神学校での礼拝時に説教を担当された事を忘れてしまって、説教の準備ができません。聖書のマタイ5章と第6章をお読みになりましたが、それが学生達に大きな感動を与える結果となりました。それは実に彼の真実性からであったと思います。

○鄭牧師：牧師になられて、初めての牧会に関する事をお話しください。

●楊牧師：大韓イエス教長老會の牧師になっての最初の働きは、1902年に設立されたキリスト教の学校である大邱信明女子高等学校でのチャプレンとして始めたので、学園牧会でした。最もやりがいを感じたのは、青少年が御言葉を純粋に受け入れ、キリストを信じる学生が多くなったことです。当時、二度に渡り校長を務められた申厚植牧師任と教師の助けを借りて、活発に学園ミッションを行う事が出来た事を感謝しております。それと同時に、1966年3月10日に慶北老会から青山教会設立の許可を受けて開拓教会を開始し、日本留学に来るまでの4年間の短い期間ではありましたが、教会を建築し入堂式（1968年7月21日）をし、堂会が作られ、申厚植牧師が第二代牧師に赴任されるまでの教会の牧会を、神様の恵みで忠実にする事ができました。

○鄭牧師：日本に来られた動機と日本宣教について、お話しください。

●楊牧師：1969年12月末に信明女子高校での牧会と慶北大学大学院にて歴史を勉強しながら、大邱青山教会での牧会を締めくくり、より深い神学的な準備のために東京神学大学大学院への留学を決意しました。その時、私にはすでに子供が4人いましたが、少しでも遅くない時期に研究する必要性を感じて日本に来ました。東京神学大学での学業中に、横浜教会から説教牧師の要請を受けて奉仕をしていた時に、在日大韓基督教の指導者との交流をしていた頃に合わせて、日本宣教師としての要請を受けました。大韓イエス教長老會総会長を務めたソウル連洞教会の金炯兌牧師の積極的な協力を頂き、日本の宣教師として派遣された次第です。

○鄭牧師：京都教會を辞任され、米国で牧会される過程についてお話しください。

●楊牧師：京都教會を辞任し、ロシアのモスクワにある長老神学大学の責任を引き受けてほしいという理事長からの要請があり、優先客員教授として数ヶ月間に渡って教えていましたが、学校の状況が非常に困難になりました。日本に戻るや

いなや、米国に住んでいる友人の牧師から集会を要請されました。それで、アメリカに渡って集会を導くようになりました。集会が終わってから、その教会が招聘を検討している事を聞き、非常に当惑をしましたが、それがきっかけとなって米国長老教会で牧会をする事になりました。オハイオ州のコロンブス韓国教会で牧会をしながら教会敷地を購入し、教会の建築を信徒と一緒に出来た事は非常に恵み深い事でした。その後も、米国長老団所属の教会から牧会者がいない教会に出向き、牧師招聘を助ける役割も担い、非常に意味の深いアメリカでの牧会であったと思います。

○鄭牧師：在日大韓基督教会とアメリカ長老教会の牧会は、祖国を離れて住んでいる移民であるディアスポラ教会だそうですが、牧会の大変さとしてはいかがでしたか？

●楊牧師：移民教会と在日教会での牧会は、同じであると思いますが、どちらも自分の祖国文化を離れ、他の所で生活することに理由があると考えて、互いに励まし助け合いながら生活していく事が重要だと思いながら牧会をして来ました。アメリカの場合は、教会が政府の政策に基づいており、大きな影響を受けてきた事を経験から、アメリカの教会は総会財政局が、教会と牧師を助ける役割を非常に良く行っていると感じました。それ故に、各教会が自立しており、牧師が勇気を失うことなく、牧会が出来るように支援している事を知り、在日大韓基督教会もそのような準備をすべきであると思いました。

○鄭牧師：米国では何年間生活され、日本に帰って来られた理由としては何でしょうか？

●楊牧師：米国では、20年間過ごしました。教会開拓と成長過程を経て、教会建築をする事になり、非常に安定性の高い教会に成長しましたが、歳を取るに従って、身体の健康に弱くなった部分が生じた時に、4人の子供たちが日本へ戻ることを勧めたので、再び日本での生活をするようになり、今は非常に楽しく生活をしています。

○鄭牧師：一生涯クリスチャンとして、牧師として生きて来られましたが、ご自分の信仰とは、何であると思われますか？

●楊牧師：信仰とは、神様の恵みを感じる事であり、神様が一人一人を憐れみ、神様からの助けを受けながら生きる時に、ひとり子をくださった事に対する絶対的な告白を介して、神様と共に暮らす事が信仰だと思います。

○鄭牧師：子孫、後輩たちに残したい言葉は？

●楊牧師：信仰生活は一人でするものではなく、礼拝共同体をどのように形成すれば、より良い牧会になるか考えながら、教会の指導者たちがよく計画して推進する必要性があると思いますが、前述したように、私達の先輩方が残してくださった事に関しては、神様の前にて誠なる姿を見せられました。日帝下にて、あるいは解放されてからも、非常に落ち着きの無い時代に牧師として礼拝を導けなかった事への自責感にか



在日大韓基督教会創立80周年時(楊炯春牧師)、90周年時(慶重牧師)、100周年時(鄭然元牧師)、110周年時(金鐘賢牧師)の各総会長—全国教会女性連合会創立70周年記念式典にて—

られ、牧会辞任を表された李牧師任を忘れる事が出来ません。そして、牧会者は「これが私の信仰だ!」と言う事と、「私は価値のない人なのに、神様がこのように導いてくださるのだ!」という事を確認しながら、自己反省を介して新たにされている事に気づく事が信仰の真の姿であり、牧師が持つべき姿勢であると思うのです。信徒たちに告げる言葉が、大変ですが……私は何者でもないのに、そのお方がどのような目的のために、今まで導いてくださったかを考え、祈りながらも人生を断面積で見ずに総合的に判断しながら、神様の御前に従順に従う事が最も重要な要素であると思います。

○鄭牧師：牧師にとって、友人や同僚とはどのような存在であると思われますか、お話しください。

●楊牧師：牧会を一人でしていると考える事は、非常に愚かな考えですが、私は京都教会からの招聘があった時に周辺の人々からは、京都教会にはより準備された牧師が行って牧会をすべきだと思われ、反対し懸念する人々が多くいました。しかし一方で私の心の中には、招聘を受け、他の人がうらやむ程に成果ある牧会をして見せようとする心がなかったわけではありませんでした。そのような事が、実に傲慢であると自ら考えるようになり、牧会においては信仰の仲間たちがいかに重要な存在かを考えさせられながら、お互いのために祈り励まし合い、自己の犠牲によって仲間を助ける姿勢が最も重要だと思いました。これは同僚や友達だけでなく、信徒との関係でも同じであると思っています。

○鄭牧師：身体がご不便であるにもかかわらず、長い時間お話しをして頂きありがとうございます。最後に、子供たちに残したい言葉がありましたらお話しください。

●楊牧師：本当は、家族には言いたい事はありますが、神様が私には身に余る程の物をくださったと思います。過度の満足をくださりただ感謝するのみです。ただ一つ、欲を持つてはならず、神様を徹底的に信じて進む事しかないと言う事を忘れないで欲しいと思います。

5 地方会の定期総会案内

<関東地方会 第72回 定期総会>

- ・日時：未定
- ・場所：未定

<中部地方会 第58回 定期総会>

- ・日時：2021年5月4日(火)
- ・場所：豊田めぐみ伝道所
(愛知県豊田市保見町南山275-1、TEL0565-48-2551)

<関西地方会 第72回 定期総会>

- ・日時：2021年5月5日(水) 10:00
- ・場所：大阪教会(大阪市生野区中川西2-5-11、TEL06-6712-3377)

<西部地方会 第37回 定期総会>

- ・日時：2021年4月29日(木) 10:00
- ・場所：神戸東部教会
(兵庫県神戸市中央区日暮通6-4-8、TEL078-241-5253)

<西南地方会 第71回 定期総会>

- ・日時：2021年4月29日(木) 11:00
- ・場所：福岡教会(福岡市博多区千代5-11-48、TEL092-641-9551)

関西聖書神学院

2020年度卒業式を挙行 今年度2名が卒業、研究科に進学

2020年度関西聖書神学院卒業式が3月21日 午後3時、本校舎(大阪北部教会)にて挙行された。今年も昨年同様、世界的に伝染が拡大している新型コロナウイルスの影響のため、卒業生と関係者のみが集う卒業式となった。

卒業礼拝は本神学院の教務である趙永哲牧師(大阪北部教会)の司会で始められ、学院長金武士牧師(西成教会)が「信じる事、知っている事、考える事」というメッセージを伝えた。

その後、引き続き学院長金武士牧師による卒業証書授与式と、関西地方会の副会長である許伯基牧師(京都南部教会)からの祝辞があった。最後に、本神学院の理事長である全聖三牧師(布施教会)の祝祷で卒業礼拝を終えた。

今年度に卒業した神学生は、本科の卒業生として朴明順(大阪北部教会)、車有吾(京都教会)の2名だった。ふたりは継

続して研究科に進学し、より深い神学を学びたいという抱負を語った。

関西聖書神学院は1984年に在日大韓基督教会で仕える人材養成、教会奉仕のための信徒教育と訓練、そして神学形成のため、関西地方会を中心に設立され今日に至っている。

(報告：趙永哲牧師)

留学
便り

韓国で神学大学院生活と軍将校生活を終え

高 大 韓



留学生生活をしながら

ハレルヤ！主の聖名を感謝します。私は韓国で生まれ、小学校4年生まで韓国で生活をし、小学校5年生から日本で過ごしました。日本で生活をしながら、良い機会が与えられ大学4年生の時、韓国で勉強することになり、再び韓国生活をするようになりました。1年間一生懸命勉強に邁進して大学を卒業後、長老会神学大学神学大学院(MDiv課程)に入学しました。本格的に神学を学び、教会での教育伝道師として仕え、貴重な時間を過ごしました。毎日早朝礼拝と祈りで一日をスタートし、大学院での勉強、また、多くの課題に偏ったりもしながらも、教会では高等部、そして幼稚部の奉仕をしながら、たくさんの経験をしました。初めてすることに迷いもありましたが、周囲の神学生などに聞いて助けを受けながら、自分のものにしていきました。説教は学校の教室で、一人で練習に練習を加えました。決して一人の力ではなく、主と共に歩んでいきました。そのほかにも、もちろん、多くの困難もありました。しかし、困難の中でも働く主を見ることができました。また、牧師になるため一日一日鍛えさせて下さる主がおられ、その愛の中で本当に幸せに大学院生活を送ることができました。

軍隊生活をしながら

私は大学院を終えた後、学士63機陸軍将校として軍入隊をしました。任官するまで4ヶ月間の軍事基礎訓練を受けて任官後、また4ヶ月間の軍事訓練を受けました。訓練を受けな

がら減量とまた、精神的にも肉体的にも強くなった自分の姿を見ることができました。放棄しなければなんでもこなすことができるという強い意志を知ることができました。軍隊にいながら軍特有の組織文化も知ようになり、さまざまな人と多くの話をしながら、社会では絶対に経験できない貴重な時間を持つことができました。最初は「なぜ私は将校として軍生活をしたのだろうか？」という後悔もたくさんしましたが振り返ってみると、将校としてのリーダーシップと責任感など、兵士として軍隊生活をしていたら感じられない貴重な経験をしました。時間が経つにつれて、あまりよくなかった思い出さえ、すべて良い思い出に変わる経験をしながら、悟りがありました。

今後の誓い

私は今年6月末に3年4ヶ月にわたる軍生活を終え除隊します。約8年近い韓国生活を終え、日本に戻ることにしました。主が今まで守り、今後も変わらずお守りくださることを信じます。主だけを頼り、主だけを考えていきます。人生を生きていながら、楽しいことも嬉しいこともあるだろうし、多くの試練や困難にも会うはずですが、私は恐れません。インマヌエルである神様がいつでもどこでも一緒におられ、守ってくださることを信じるからです。主は重い荷を下ろせと言われます。そして主は、わたしがあなたを守ると言われます。すべてのものを創造し治める主と一緒に、主だけを握って、これからたくましく大胆に前を見て進んで行きたいと思います。そして、すべてが主の恵みであることを告白します。最後に、与えられた使命をしっかりと果たしていくことができるよう、お祈りをお願いいたします。すべてに感謝いたします。

公告《総会奨学生 募集案内》

総会神学生として各地方会にて認定され、1年を経過した者が申請できます。書類は総会事務局にお問い合わせください。

○募集人員：3名

○支給金額：年額 200,000 円／1人

○支給期間：1年間(受給者は、継続して新たな申請必要)

○必要書類：①奨学金申請書 ②在学証明書 ③成績証明書
④履歴書 ⑤堂会長推薦書 ⑥総会神学生認定書(各地方会試取部) ⑦各地方会長承認書

○書類提出先：総会事務局

○締め切り：2021年4月30日必着